

# 歴代天皇毎に皇紀で読む日本の通史

皇紀元(神武天皇元年)年に初代・神武天皇が橿原の地で即位された日本の建国から明治維新に至るまでの日本の正史を『日本書紀』『古事記』等の記述をもとに皇紀で綴る。本書は天皇の祈りの中で天皇とともに歩んできた日本の歴史を歴代天皇毎に、編年体で分り易くまとめた日本の通史である。

## 歴代天皇で読む 日本の正史

吉重 丈夫 著



定価: 本体3,600円(税別)

平成27年4月発行

A 5判・上製・カバー装・652頁

ISBN978-4-7646-0122-2

錦正社

〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町544-6

電話 03 (5261) 2891 FAX 03 (5261) 2892

URL <http://www.kinseisha.jp/>

(平成27年5月)

書店様番線	注文数	歴代天皇で読む日本の正史 定価：本体 3,600 円(税別) (ISBN978-4-7646-0122-2)
	冊	
	お名前	
	〒 ご住所	
	お電話	

注文書

## 推薦のことば

# 『日本の正史』 刊行に寄せて

竹田恒泰

この度、吉重丈夫様が名著『日本の正史』を上梓なさいましたことを、心からお喜び申し上げます。

本書は建国前から書き始められ、初代神武天皇から第一二二代孝明天皇に至るまでの、我が国の天皇の歴史を、主に正史を軸にして、歴代天皇の代毎にまとめた本です。まさに『日本の正史』と称するに相応しいものです。

ところで「正史」とは、国家が編纂した公式な歴史書のことです。我が国においては神代から第四一代持統天皇までを記した『日本書紀』から始まり、『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』と、第五八代光孝天皇までの歴史が綴られています。その後、正史編纂事業は行われていませんが、歴代天皇実録や『大日本史料』などが「正史」の穴埋めをする史料となり、現在でも編纂が続けられています。平成二十六年に『昭和天皇実録』が公開されましたが、これは正史編纂に準じる国家事業であり、実質的には「正史」そのものといっても差し支えないものです。しかし、これらの史料は膨大な分量があり、しかも大抵は漢文で書かれていますので、読み込むのは研究者でない限り無理でしょう。ところが、本書は通読するだけで、我が国の「正史」の全体像を把握することができるので、一般人が「正史」を知ることができる本として、大きな価値があります。

本来、学校では「正史」を機軸として国史（日本史）を教えるべきであるというのが、吉重様の信念です。しかしながら、戦後の学校教育においては、幕府や政治家から見た政治史を日本史と称して教えているのが現状です。これでは、我が国の軸となるものが見え

てきません。あたかも、幕府が変わる度に革命が起きて別の国が出現しているような印象さえ与えるものです。そのような歪んだ教育を施す時代だからこそ、本書は価値があるのです。

吉重様は、正史やその他の膨大な史料から、丹念に記事を抽出し、歴代天皇毎に重要事項を書くのみならず、未解決の論点に独自の見地から解説を施しているため、本書は読者に新たな示唆を与えてくれます。本書は四十万字を越える分量がありますが、幕末までの一二一代の天皇の歴史を総攬する本にしては、実に簡潔に分かりやすくまとめられていると思います。本書を通読することで、我が国の歴史を貫く一筋の線が見えてくることでしょう。

執筆にあたり、吉重様には大変なご苦勞があったことと拝察いたします。学説が分かれる点では、いかなる理由に基づきどの立場に立つか、自問自答の繰り返しだったのではないのでしょうか。また本書は歴代天皇について基本事項が網羅されていて、史料が多数引用されていますので、研究者にとって、常に近くに置いておきたい一冊になることと思います。執筆に当たってのご苦勞を偲び、刊行に寄せて、最大の敬意を表したく思います。

さて、吉重様には、長年にわたり、大阪竹田研究会幹事長として、竹田研究会の運営に多大なるご尽力を頂いております。吉重様は、いつも行事などで、日本人として知っておかねばならない大切なことを、若者たちに熱心にお話しになります。そのような国を憂うお気持ち、この本として結実したのでしょう。どうかこれからも、未来を担う若者たちに正しい方向を指し示して頂きたいと思えます。吉重様のご健康を祈念して、結びの言葉とさせていただきます。